

ダニエル・カールの

聞きたい! 消防団

第24回

兵庫県福崎町消防団

今回は、東海道新幹線から播但線に乗り継ぎ、兵庫県福崎町をお訪ねしました。

福崎町消防団は、全国でも屈指の平均年齢の若い消防団ですが、消防団としての使命を日々追求され、消防技術の向上に取り組んでらっしゃいます。その成果として、消防操法の全国大会では、第22回大会小型ポンプの部優勝、第24回大会小型ポンプの部準優勝と優秀な成績をおさめられています。また、操法だけでなく、将

来の福崎町の防災力向上を見越した取組も始めてらっしゃいます。

そんな福崎町消防団についてお尋ねしたいと思います。

それでは、福崎町消防団の村西和也団長、中塚昌樹副団長、安積一郎副団長、城谷博紀副団長、松岡希佐副団長、宮内克恭副団長、内藤正司副団長、小幡勇介副団長、福崎町住民生活課の谷岡周和課長からお話を伺いましょう。



前列左から、村西団長、ダニエル・カール、後列左から松岡副団長、宮内副団長、安積副団長、小幡副団長、内藤副団長、中塚副団長、城谷副団長（福崎町役場で撮影）

福崎町の概要について

ダニエル まずは福崎町の概要を教えてください。

谷岡課長 本町は、昭和31年5月に旧福崎町、田原村、八千草村の1町2村が合併して誕生しました。発足当時約1万6千人だった人口は、現在約2万人となりました。

播州平野の北端、播磨北西部に位置し、南と西は姫路市、東は加西市、北は市川町と接しています。

姫路の中心地から約17kmの距離にあり、中国縦貫自動車道と播但連絡道が交差する広域的な交通の要衝に位置しています。

生野銀山から姫路港までを結んだ「銀の馬車道」は日本初の高速道路と言われています。

住宅が約10%、畑や田が約20%、山林が約40%という地勢を背景に、現在、町内にある3つの工業団地では、43社が操業し、近郊都市的な発展を遂げています。

消防団事務は町で担っており、常備消防は、姫路市消防局に委託しています。

ダニエル ありがとうございます。自然も豊かですごく魅力的ですね。



福崎町ゆるキャラ(フクちゃん・サキちゃん)

福崎町消防団の概要について

ダニエル 福崎町消防団の概要を教えてください。

村西団長 福崎町消防団の組織概要としては、すべて平成29年4月1日現在で、1本部、3支部、32分団で構成され、団員数は条例定数、実員数ともに600人と、充足率は100%を維持しています。

階級別団員数は団長1人、副団長8人、分団長32人、副分団長65人、班長162人、団員332人です。平均年齢は31.7歳と全国屈指の若い消防団です。また、消防ポンプ自動車2台、小型動力ポンプ付積載車30台、指揮車2台、小型動力ポンプ35台を所有しています。



取材の様子

ダニエル 皆さんお若い方ばかりで、パワーを感じます。若さ溢れる笑顔からも郷土愛が伝わってくるようです。

消防基金の公務災害防止研修について

ダニエル 福崎町消防団では、消防基金の研修(S-KYT等)を毎年メニューを変えて実施されていますが、実施してみてどうでしたか？

内藤副団長 4つの研修会メニューを順番に毎年実施していますが、毎回新しい発見があります。自分たち自身でも試行錯誤しながら安全管理について考えていますが、私たちは常に広い見分を取り入れる姿勢を持ち続けていたいと思っています。研修会で指導員さんから豊富な

経験を踏まえて教えていただくと、受講した団員にダイレクトかつ新鮮に伝わります。受講した団員は、ヒヤリハット事例をほかの団員に共有するなど、その後の訓練に活かしています。

中塚副団長 今後、こういった研修会のメニューが増えると嬉しいなと思っていたところ、消防基金の広報誌に新しい研修会を作られるという記事を見つけました。福崎町消防団でもぜひ開催したいと考えています。

ダニエル 皆さんの向上心が伝わってきます。既存の研修会ともどもぜひ活用してください。

災害時の活動について

ダニエル 福崎町消防団では災害活動はどのような体制で行ってらっしゃいますか？

中塚副団長 怖いのは、いわゆるゲリラ豪雨です。台風災害では、あらかじめ災害対応の準備ができますが、ゲリラ豪雨は、どこでどのくらいの雨が降るかを事前に予想しづらい上に、短時間で一気に河川等の水位があがるため、迅速かつ確かな対応が求められます。また、この辺りは上流で降った雨が1時間後くらいにどっと押し寄せてくるので、雨が上がったからといって安心できないこともあります。

その点において、私たちは、地域密着で活動していますから、地形等を把握しており、対応が必要な場所にいち早く駆け付けることができます。近年の台風や集中豪雨の際にも、迅速に土嚢積みを行うなど、実災害における活動でも安全・確実に対応ができました。



ライフジャケット着衣泳法訓練

町からは、近年の豪雨災害の発生状況を勘案して、水防活動において団員自身の安全を確保するため、ライフジャケットを配備していただきました。早速ライフジャケットの着衣泳法も訓練に取り入れました。

火災出場としては、平成28年春に、町内のお寺が全焼する火災がありました。

内藤副団長 お寺の火災では、水利確保がポイントでした。火災現場最寄りの消火栓の水利は、姫路市消防局中播署の消防隊が使用していましたが、その消火栓の水だけでは全然足りませんから、私たちは、不足する水を確保するために、河川や池の自然水利から長距離送水して水を確保するとともに、常備消防と協力して消火活動にあたりました。真夜中まで活動は続きました。このとき大切なのは、伝達です。消防団員自身の安全を確保するために、指揮者が全体を把握してすべての持ち場の団員に状況を伝達させなければなりません。伝達の役割は指揮者以外の者が担うのですが、正しく末端まで伝えなければ、自分たちの安全を確保することはできません。こういったひとつひとつの動き、役割分担は、日頃の訓練で培われた消防技術によるものです。

ただ、こいうった火災時に消防団の活動が称えられることが多いのですが、火災はない方がいいんです。火災ゼロを達成するために私たちは普段から火災予防の啓発を徹底しています。ですので、地元の貴重な文化財が活動むなしく燃えてしまったことが無念でした。

ダニエル それは、さぞかし無念だったことでしょう。確かに、火を消すことが消防団の役割だとよく言われますが、火災ゼロが消防団にとって一番称えられるべきことなんじゃないかな。

こちらの地域は、常備消防が広域化されていま

すから、地元密着な消防団が頼りにされるんじゃないでしょうか。

小幡副団長 火災や風水害のときも地元密着の消防団が大事なのですが、大規模災害時にはその役割がさらに重要となります。

高速道路に沿って断層がありまして、ここでも大きな地震が起こる可能性があります。広域化している常備消防が仮に都市部である姫路方面にその戦力を集中した場合、我々消防団が地域を守る一番の要となるでしょう。

ダニエル 大規模災害時には、常備消防がすべての地域に対応しきれないことが想定されますからね。しかしながら、地域住民の意識としては、つい、119番に救助要請したら助けに来てもらえると思いがちです。

将来の福崎町のために

松岡副団長 この辺りは、地域柄、子どもからお年寄りまで顔見知りであることが強みです。その地盤として、「祭り」の存在が非常に大きいです。

昔から、祭りの要職が消防団員で構成されており、花形の乗り子に選ばれる子どもたちは、祭りに憧れるのと同時に消防団にも憧れるという地盤がありました。

しかしながら、近年、一概にそうではなくなりつつあり、将来を見越して新たな方策を考えていく必要があると思っています。

ダニエル 他の地域の消防団でもよく聞く課題ですが、こちらでも平日昼間の消防力確保は難しくなっているのでしょうか。

村西団長 そうですね。私たちの消防団でもサラリーマンが増えてきています。私自身もサラリーマンです。この辺りは、工業地域があり、昼間人口が多いのですが、一方で昼間地

元にいる団員は減少傾向なんです。平日昼間の消防力補完は喫緊の課題です。

私たちの消防団は、全国屈指の若い消防団として運営しておりますが、それはつまり引退が早いわけです。ですからOBも若い。

そこで、平日昼間も地元にいる経験豊富なOBの力を取り入れようと考えました。新年度からは、OB団員による機能別消防団を立ち上げる予定です。

ダニエル 将来を見越して、というお話がありました。具体的などのような取組をされていますか。

安積副団長 今年度から始めたのですが、神崎郡の操法大会の会場で物産展を開催したり、子どもたちが描いてくれたポスターを展示したりと、普段消防団とあまり関わる機会のない人にも楽しみながら消防団に親しんでもらえる総合的なイベントを企画しました。今までは操法大会の会場には関係者しかいなかったのですが、一般の方もご来場くださるようになりました。この企画は、操法で全国大会に出場したときの会場のイベントブースをヒントに思いついたものです。



ポスター展示の様子

ダニエル なるほど。普段災害のないときには、消防団の活動を見る機会が少ないですが、地域のイベントとして開催することで、消防団に親

しんでもらえるわけですね。

中塚副団長 こうした取組は、我々消防団から行政の方々に対して提案することも多いのですが、いつも多大なご理解とご支援をいただいています。福崎町の消防団担当の方たちも中播署の署員の方たちもいつも力を貸してくださいます。

中播署の皆さまには、現場活動だけでなく、年間通じての訓練においてもご指導いただいています。

また、火災現場の活動に必要な防火服の配備や安全に水防活動を行うためのライフジャケットの配備など、装備においてもご支援いただいています。

ソフト面の充実もハード面の充実も行政と消防団の協力体制がうまくいっているからこそ実現できることだと思います。

私たちも感謝の気持ちを忘れず、それに応えられるように前進していこうと思っています。

ダニエル 行政と消防団の関係性も素晴らしいですね。

福崎町消防団は、若いだけでなく、充足率も100%ですよ。

宮内副団長 確かに現状は100%です。しかしながら、近年の傾向をみると、今後もずっと同じやり方で現状を維持するのは難しいと感じています。ですから先ほどお話ししましたとおり、来年度からは平日昼間の消防力を補完するためにOBによる機能別消防団を新設しますし、子どもたちにも小さい頃から今よりもっと消防団に親しんでもらえるように取り組もうとしています。子どもたちへの取組は、効果はすぐに現れないかもしれませんが、将来を見越した取組が大事だと考えています。

今の子どもたちが将来の福崎町を支えていくわ

けですから、すべては、福崎町の将来のためにつながるのだと思います。



取材の様子

村西団長 今お話にあがった子どもたちへの取組にも通じることなのですが、福崎町消防団は、「かっこいい消防団であれ」を理念に普段から活動しています。例えば、消防団の服装にしても敬礼ひとつとっても、だらしなくしてたらかっこよくないですよ。まずは、指導する立場の幹部団員が服装も振る舞いも端然とする。すると若手団員は、その姿をみて自然と立ち振る舞いを学ぶものです。指導されたときも素直に受け入れる。指導と言葉にしたときの厳しいニュアンスではなく、本来そこには憧れがあるべきだと思います。自然と真似したくなるようなかっこよさ。教えを素直に受け入れられる気持ちになるには、そういうかっこよさが必要だと思います。そういう姿は、子どもたちからもかっこいいと思われる。そんな消防団でなければならないと思います。

ダニエル 消防団としてだけでなく、人としてのあるべき姿といえますね。そういったことまで学べるのが消防団なんですね。

確かに、消防団の皆さんが規律正しく動かれているのを見たらかっこいいと思います。福崎町消防団のポンプ操法のかっこよさは、そういうとこ

ろからきているんですね。

操法論

城谷副団長 ポンプ操法の動きについては、よく「実際の火災現場であんなにカクカクした動きはしないじゃないか」という指摘があるのですが、競技には、いち早く火点を落とす(火を消す)というタイムを競う部分と、タイムは関係なく、消防団の規律を魅せる部分とに分かれます。

魅せる部分については、選手(隊員)の息の合った動きが審査項目にあるのですが、それは、「これから現場に行くぞ」というときの全員の気持ちを統一させるとともに、隊員全員の体調などの状態をみた上で万全の態勢で現場に向かうという安全管理の意味が込められていると私たちは考えています。

また、すべての操作が完了した際に各自が「異常なし」と報告するのですが、これも安全管理です。操法は、安全管理に始まり安全管理に終わる。ですから、そこは最も力を入れて練習する部分といえます。

ダニエル 全国大会では、連続で優秀な成績をおさめられていますね。

村西団長 ありがとうございます。成績に関しては、自慢できる部分です。なにより、自分たちがひとつひとつ積み上げてきた理念・理論・努力を証明できたということがとてもうれしいです。

ただ、補足すると、ポンプ操法はどうしても競技面がクローズアップされますが、私たちは、「訓練のための訓練になってはいけない」と考えています。確かに競技であるからこそ、優勝を目指して闘志を燃やせるのですが、その根本には、災害現場で活動できる消防技術を身につけ

ることが目的として存在していて、団員の安全管理がその中心にあるわけです。



第24回全国消防操法大会の様子

城谷副団長 私たちは、操法要領に込められたひとつひとつの動きの真理を探究しているのだと思います。例えば、先ほどお話にあったカクカクした動きのひとつに、待機線から2m前進する「集まれ」の動きがありますが、毎回正確に3人がシンクロする動きをするには、重心移動が大事なんです。重心が正しくとらえられていないと、スリップして転倒したり、上体がふらついたりします。これは、他のすべての動きに共通することです。

私自身も大事な大会でスリップして転倒した経験があるのですが、転倒を防ぐためにはどうすればいいかを徹底的に研究してきました。その根底には、選手自身もケガをしたくないし、指導者も選手にケガをさせたくないという気持ちがあるんです。

また、道具だって常にピカピカです。ホースもポンプも手入れは徹底しています。それは団員の安全管理のためなんです。

昔、ずっと使ってきたポンプが劣化してきているのを操法訓練中に発見したことがありました。今後もそのポンプを使うかどうかを悩んだとき、先輩から「部下に水が出んかもしれんポンプをもたせて火災現場へ行ってこいと言うつもりか」と教えられたことがあります。結局ポ

ンプを新しく調達したのですが、そのポンプは操法だけに使うわけではなく、福崎町を守る宝なんです。私も安全管理・器具愛護の精神をそうやって先輩から受け継いできました。

私たちは日々の訓練の中で、災害現場においていかにすれば安全な活動をできるかを探究しているわけです。

ダニエル 操法に込められたその意味は、どのようにして若い団員さんに伝えてらっしゃいますか。

城谷副団長 これが大変難しいんです。説明していないわけでもない、説明を受けていないわけでもない。でも、それを自分で理解するには、長い時間がかかる。手を抜かずとことんやり続けて、何度も失敗を重ねて、あるとき、ハッと「わかる」んです。前から先輩に言われていたことはこのことだったのかって。

これらを身に付けて初めて災害現場で安全な活動ができるようになる。消防技術を身につける「手法」として「操法」があるわけです。操法は、いわば小学校の教科書・教育課程のようなものです。学んでいるときには気が付きにくいかもしれませんが、修得した者は大事だとわかる。

災害現場の活動に必要な消防技術を身に付ける手法は操法でなくてもいいんです。でも、カリキュラムとしては、若手団員が消防団の規律と器具操作を同時に修得できる操法が最も効率的なのだと思います。

村西団長 伝えるということも大事だと思います。その意味をちゃんと理解した指導者が若い団員に伝えていかなければならない。伝えることも含めて操法でしょう。

第一、先輩から訓練やひとつひとつの動作の意味も教えられず、やみくもに操法訓練をやらされているだけだと、嫌になってやめちゃいます(笑)

ダニエル 大会に出る選手だけではないんですね。指導する団員、サポートする団員。競技に出場しなくても、団員みんなで取り組むのが操法ということですね。

城谷副団長 そうなんです。私たちは、若手の隊、中堅の隊、ベテランの隊と3隊編成で長い操法を戦っています。若手の隊は何年も下積みの期間がありますが、それぞれが試行錯誤する中で本当の訓練の意味に気が付きます。こうした過程を経て、消防団全体の消防技術を向上させるという本来の目的が達成されるのだと思います。そしてそれが競技面の成績として結果的に一致するのだと思います。

平成30年度は、兵庫県が小型ポンプの部の順番となっており、私たちも全国大会への挑戦権がある年です。町大会、郡大会、県大会そして全国大会。勝ち上がるのは並大抵のことではありません。過去の実績だけで勝てるわけでもありません。

選手の世代交代や私たちを目標に訓練しているライバルの登場。前回大会から状況は変わってきました。

それでもやるべきことの本質は、変わりません。私たちが操法でまだ無名だったころからずっと追い求めてきたことの集大成を全国大会の舞台で出し切り、再びその頂点を極めたいです。



第22回全国消防操法大会優勝



第24回全国消防操法大会準優勝

対談を終えて

福崎町には初めてお伺いしました。お出迎えいただいた瞬間、消防団の皆さんの笑顔と若さ溢れる雰囲気のおかげ私もずっと前から福崎町に住んでいたような気がしました。

消防団を中心に地元住民が一番盛り上がるのが秋の祭りとのことで、祭り好きの私もすっかり意気投合しました。普段からの住民同士のつながりが深く、大変魅力的な町でした。秋の祭りの日にはぜひまた訪れたいと思います。

人(仲間)を大切に、郷土を大切に、道具を大切にする。そんな人柄が福崎町消防団の魅力だと感じました。消防団に対する真摯な姿をみると心から応援したくなります。

福崎町消防団の皆さんの益々のご活躍をお祈りいたします。
(ダニエル・カール)